

東北文化学園大学同窓会中期的重点目標を見直しました。

2017年3月現在 正会員数 8,356名



会長挨拶

この度、昨年度10月に総会があり再任させていただき運びとなりました。引き続き会の発展の為に頑張らせていただきますので宜しくお願いします。

また今回総会にて中期的重点目標についても見直しを行いました。設定した8年前は会の運営の構築とかに安定化させるが課題となっておりましたが、一定の目処がたった事もあり

新たに目標を再構築しました。

今回目標を設定するにあたり重視した点は「会員」です。同窓会を活性化していく為に会員の皆様の参加が必要不可欠であり、また「同窓会」は会員の為のものでなければなりません。

これまでただただ参加して下さいと声をあげておりましたが、これからは皆さんが自発的に参加したくなるような運営を目標に頑張っていきたいと思っています。

東北文化学園大学同窓会中期的重点目標

(平成28年10月23日 総会にて決定)

1. 同窓会会員のニーズに沿った同窓会活動の強化

本会は、会員相互の親睦を図るとともに、東北文化学園大学の発展に寄与することを目的としており、同窓会会員のニーズに沿っているかを常に意識し、様々な同窓会活動の強化を検討する。

2. 同窓会の存在と活動を周知するための広報活動の強化

会員からの会費徴収は、本会の事業計画を広く周知した上で行い、その資金の使途について会員へ報告を行う義務が生じる。また、在学生会員にも本会の活動を広報することで、卒業後の同窓会活動への理解が深まる。以上から、広報活動は同窓会が継続的に存続するために必要な活動であるが、その方法は(1)より多くの会員へ、(2)安価な方法で、(3)より簡便な方法が望ましく、その方法としてITの活用を積極的に進める。

3. 地域に貢献する取組

本会は、東北文化学園大学の教育理念に掲げる「地域社会とともに発展する大学」を一助を担い、地域にも目を向け、地域貢献、社会貢献を積極的に図る。

学生部長
同窓会監事
須藤 諭

ので、平成19年度に初めて行われ、2回目が平成23年度、3回目が平成27年度に実施されております。これら3回の「大調査」の他、平成24年度からは、「個人属性」と「大学への満足度と要望」の2カテゴリーを抜き出した「小調査」も毎年行ってきました。

調査における結論的質問として「総合的な満足度」を尋ねていますが、この質問に対する肯定的評価は平成23年度調査で54.7%と、平成19年度の61.8%よりも低下し心配されたのですが、平成24年度からは上昇

学生部長挨拶

東北文化学園大学 学生生活実態調査について

学生部長として3年度目となり、同窓会においても引き続き監事を務めさせていただいております。

さて、本学では、「学生の日常生活および勉学への取り組み状況を把握し、キャンパスライフの質の向上を図るための基礎資料を得ることを」として、「学生生活実態調査」を行っております。本調査は、4年毎に7カテゴリー100問弱の質問に回答してもらうも

に転じ、平成27年度調査の66.8%で毎年上昇、平成28年度は66.4%との評価でありました。本学は、ハード・ソフト両面において様々な改善に取り組みで来ており、満足度の評価も上昇してきたものと思われます。しかし、まだ30%程度の学生が否定的評価を下していることもしっかりと受け止め、学生たちの意見・要望を組み上げて、更なる改善を図っていく必要があると考えております。

本学の改善

点等について、

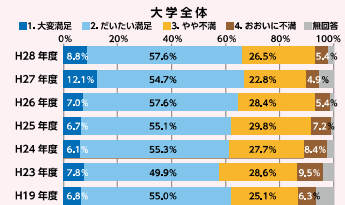
是非、皆様の

忌憚のないご

意見やご助言

をいただければ

幸甚に存じます。



学生生活実態調査「総合的な満足度」(平成19年度～平成28年度)

輝人(キラリびと)特集!

同窓会は平成30年3月で設立してから15年目を迎えます。一つの節目として、活躍する卒業生の特集を組みました。各分野で活躍されている輝人を紹介いたします。



手段としての独立

医療福祉学部リハビリテーション学科
理学療法専攻 平成15年3月卒業
宮田 貴史



大学の一期生として、先輩もあらず、のびのびと楽しい学園生活を送らせてもらった。そんな自分がまさか独立とは...

現在、仙台からは遠く離れた長崎で訪問看護ステーションと障害児を対象にした通所事業を営んでいる。

「なぜ、独立したの？」と聞かれる機会がある。

子供が障害を持って生まれ、小児リハの受け皿の少なさに愕然とした事。何かが変わる事を望むのではなく、自分が現状を変えたいと思ったから。

「障害児を持つ親が、安心して亡くなる事が出来る未来」を、どうしてもこの手で作りたかった。

独立を目指す後輩へ

少しでも早く経営の道を志しただけの先輩の小言です。独立を目的にするのは結構な事ですが、私はお勧めしません。独立は「目的」ではなく「手段」です。なすべき事が見付かり、その手段として独立ができれば、それはあなたの武器になる。

目的が明確であればある程、独立後に必ず経験するであろう理不尽さ、些細な事に感じるはずだ。



感じるこ

医療福祉学部 リハビリテーション学科
言語聴覚専攻 平成29年3月卒業
堀 真由紀



言語聴覚士となり3ヶ月、私は東京の回復期病院で働いています。一人暮らしや社会人としての生活、何もかもが初めてのなか「自分が今何をすべきか。何ができているのか。」ということが常に頭から離れない程余裕がありません。実習とは違い、患者様と関わるだけではなく働く者としてこなさなければならぬ業務や、責任があります。そんな不安や戸惑いに押し潰されそうなく、私を救ってくれるのは患者様です。失語症の方が昨日よりも話せる言葉が増えた時、摂食嚥下障害の方の経管が抜けた日など、自分が提供する訓練を患者様が頑張り、成果が出る。これ程嬉しいことはありません。病院で働いているからこそ、日々の患者様の変化を見ることが出来ます。ありきたりなことを言っていますが、患者様にとって、生死を彷徨う一大事の後、回復に向けて携われるこの職業というのとはとても素晴らしいものだ改めて感じています。今後も、現在感じていることに慣れずに患者様と向き合い、私に何が出来るかを考えていきたいです。



大学病院で経験できたこと

医療福祉学部 リハビリテーション学科
視覚聴覚専攻 平成26年3月卒業
高橋 夏実



視能訓練士として大学病院に就職してあっという間に4年が経ちました。職場ではたくさんの症例の検査や診療に携わり、充実した毎日を過ごしています。症例でわからないことや疑問に思ったことは医師や先輩方に相談、指導して頂き、日々勉強の毎日です。

今の職場では、毎年学会発表の機会も与えて頂き、名古屋、京都、横浜、広島、シンガポールなど、たくさんの学会で発表し、眼科の国内雑誌、海外雑誌に論文を掲載することもできました。また、小笠原諸島での出張診療にも参加させて頂き、臨床以外の貴重な経験もさせてもらっています。その中でも3年目に参加した海外の学会は、臨床をやりながらの学会に向けての準備は大変でしたが、自分の自信にもつながる貴重な経験・体験ができました。このような経験ができているのも、ご指導して頂いている職場の上司や先輩方のおかげだと、とても感謝しています。

今後もより一層努力しながら、視能訓練士としてたくさんの経験をしていけるように頑張りたいと思います。



よく働き、よく遊ぶ

科学技術学部 知能情報システム学科
平成29年3月卒業
三浦 涼香



私は、現在仙台のIT企業に勤めています。大学ではウェブプログラミングや情報ネットワークなどネットワークシステムの分野を中心に学んでいました。入社してまだ半年も経っていませんが、会社のモットーである、「よく働き、よく遊ぶ」という社風のもと、ONとOFFのスイッチを使い分けて充実した毎日を送っています。

平日は仕事に集中し、しっかり働いた分、休日は遊んだり、休息を取ったり仕事もプライベートも両立させることでより切り替えて仕事に集中することができると感じています。仕事の方では、現在在業務で使用する言語の修得に向けて日々、技術向上を目標に励んでいます。

まだまだ技術不足で至らない点が多々ありますが、仕事で分からないことやうまく進められないときは、先輩社員がすぐ助けてくれるので、安心して思いっきり意見を言えます。また、会社のメンバーが全員明るく、優しい人たちがばかりなので今の会社に入社して本当に良かったと思っています。今後は「チャレンジ精神」を持って、自分自身の成長のために、自分が何をどう考え、何を成し得ていくか、志と責任を持って精進していきたいです。



快適な空間創りを目指して

科学技術学部 住環境デザイン学科
平成19年3月卒業
二科 紀里



本学の住環境デザイン学科(現:建築環境学科)を卒業し、本学大学院博士前期課程、後期課程に進学しました。また、大学院進学中に本学教員に着任し、現在も教育や研究活動に励んでいます。

私は、中学生時代から建築を学びたいと思っていました。その理由としては、いつの時代でもより快適な空間作りが求められると思ったからです。今でもその思いは変わらずに教育や研究活動を行っております。

また、私ごとではありますが、野崎教授の指導の下、博士課程前期1年において第25回 空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会 会長奨励賞、さらに昨年度に第33回 空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会をローレル研究大会 会長奨励賞を拝受しました。これも、快適な空間創りを目指して研究活動に取り組んだ成果が会長奨励賞に繋がっていると感じております。関係する先生方に深甚なる感謝の意を表します。

今後は、自己の教育・研究活動はもちろんのこと、学生の目標や知識向上のサポートを行い、さらに、快適な室内環境づくりができる学生を育てられるよう邁進していきたいと思っています。